

ペルー ブルーベリー出荷量は緩やかなピークで昨年を上回る予想

[FreshPlaza 2024年9月23日](#)

ペルーのブルーベリー産業は昨年の生産量を上回る見込みだが、今回は例年の急激なピークに比べて緩やかな出荷曲線が見込まれる。このことは、世界の大部分の市場でブルーベリーの価格の安定維持に寄与する可能性がある。フォールクリーク社(本社は米国オレゴン州)でペルー担当の応用研究責任者を務めるキアラ・マクセラ・ヌニェス氏は、「予測では生産量は昨年よりも多くなるが、出荷量曲線はより平坦で、以前のようないくつかのピークは見られない」と説明する。(以下「」は同氏の発言)

ヌニェス氏は、南アフリカのパール市で開催された同社グループの会合で講演し、ペルーの今シーズンの概要を説明した。「昨年、ペルーではエルニーニョ現象が発生し、生産量は減少したが価格の上昇につながった。ブルーベリーは引き続き非常に収益性の高い作物である。2024-25年度シーズンは生産曲線の変動が少なくなり、遅延が発生するだろう。9月末または10月上旬までにピークに達すると予想している。」

ヌニェス氏は、昨シーズンの輸出水準の低下時には、品不足のために価格が急騰したことを強調した。「2022年には9月に非常に高いピークを迎え、数量が多く、価格が下落した。ペルーでは現在、ピーク時の集中が少なくなることを目指しており、一部の生産者は年間を通しての収穫を計画している。しかし、1月から3月までの夏季に収穫することは難易度が高いため、年の前半は収穫量が減少すると予想している。昨シーズンのペルーの生産量が23%減少したため引き合いが強まり、ブルーベリーの価格は1kg当たり7ドルに達した。」

生産者は変化する状況に適応

ヌニェス氏は、ペルーの生産者は、気候上の課題と変化する消費者の好みに対処するため、次第に古い品種を新しい遺伝資源に置き換えていると説明した。「生産者は、古いピロクシ品種とベンチュラ品種を置き換えるため、新しい品種に目を向けている。ペルーで最も新しい生産施設では現在、培養土を用いた鉢植えで栽培している。」

この変化は、これらの新しいブルーベリー品種のおかげで需要が拡大している中国等の市場に関して特に重要である。「これらの新品種は気候と市場の需要の両方によりよく適合しており、その品質と特性により中国市場は拡大している。」

世界中での試験

ヌニェス氏の主な役割はペルーでの応用研究リーダーであるが、世界中のフォールクリーク社の新しい品種の試験も監督している。「我々は13カ国以上の80の施設で試験を行っている。我々はシーズンを通じて世界中の生産者と協力している。」

ヌニェス氏は、FCM14-057やFCM17-132など、試験中の新品種の一部を紹介した。「FCM14-057は、早生品種で、歯ごたえがあり、貯蔵寿命に優れた大粒からジャンボサイズの果実を生産する。FCM17-132も有望な品種で、こちらは中生である。」

ただし、これらの品種は有望視されているものの、様々な培地やすべての地域の条件への適応を確保するためには、まだやるべきことがあると同氏は警告した。「選抜は進んでいるが、異なる培地への適応性を検証し、様々な国でうまく生産できることを確認する必要がある。」

執筆者: クレイトン・スワート

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)